条幅臨書部課題　（一月二十二日締切）

曹全碑

枝分葉布。所在爲雄。君高祖父敏。舉孝廉。

枝分葉布し、所在に雄（ゆう）たり。君の高祖父敏（びん）は、孝廉（こうれん）に挙（あ）げられ、

条幅臨書部は半紙臨書部と連動しています。半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。
▽落款は「〇〇臨」と調和を工夫し書き入れる。
▽出品料五二五円。

◆注 意　・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

条幅部漢字課題参考　（一月二十二日締切）

A

鈴木静村書

牀前看月光　疑是地上霜　擧頭望山月　低頭思故郷（李白）

牀前月光を看る、疑うらくは是れ地上の霜かと。頭を挙げて山月を望み、頭を低れて故郷を思う。

筆は和筆の兼毫三号。掛けて眺め入るに、ご覧のように貧相感。細くも強くを意識したが、周りの余白に制せられ、筆線が埋没気味。みなさんはこの作例を骨法として、より太めに大小に工夫。これを一新して貰いたい。墨継ぎは「**疑・擧・低**」の三字（みなさんは参考に）。筆意的には左右二行の潤渇の照応に注目のこと。「**牀前**」と「**望山月**」、「**低頭思**」と「**看月光**」「**疑是地上**」と「**故郷**」、さらに**落款**と「**霜擧頭**」。特に縦への流れ・リズムに留意。字々の意連・連綿について習熟されるよう切望したい。

B

髙橋香樹主幹書

今回は二十字の課題なので、できる限り連綿しようと、まず、三行を試みたが纏まらず、二行書となる。連綿は右下から左上への連綿が多くならないように工夫。八字連綿・五字連綿・三字連綿・二字連綿二ヶ所。行書草書同数とした。落款は「於湖畔艸堂書香樹」と堂号を加えた。

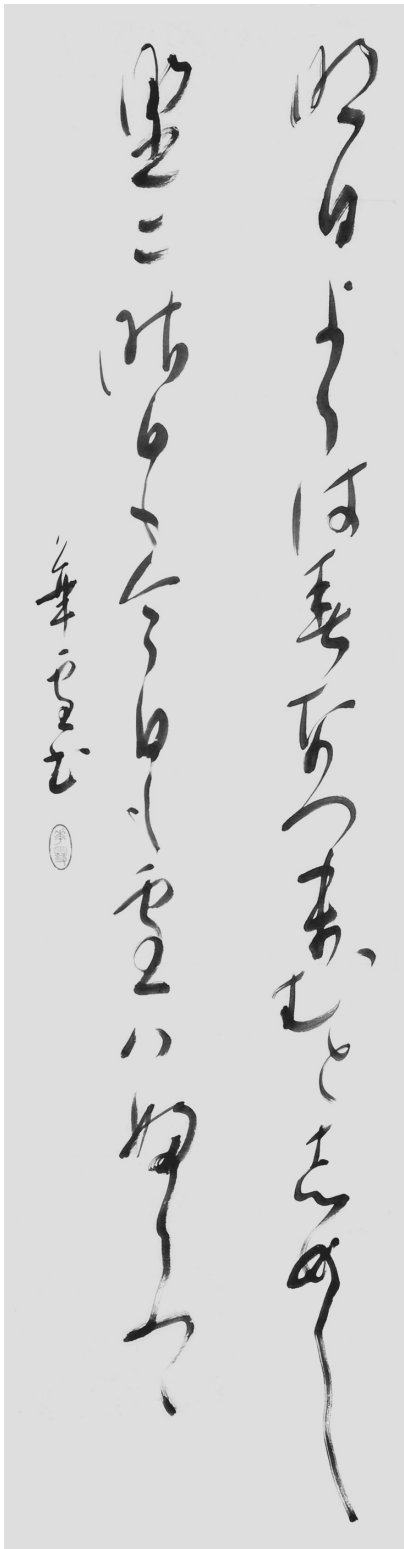
訳…寝床のさきの月光に目を移すと、地面に下りた霜ではないかと疑われる。頭をあげて、山にかかる月をながめ、頭をたれて、故郷のことなどを思う。

予告（二月二十二日締切）　**春潮帯雨晩來急　野渡無人舟自横（韋応物）**

◆**注意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料525円）

条幅部かな課題参考　（一月二十二日締切）

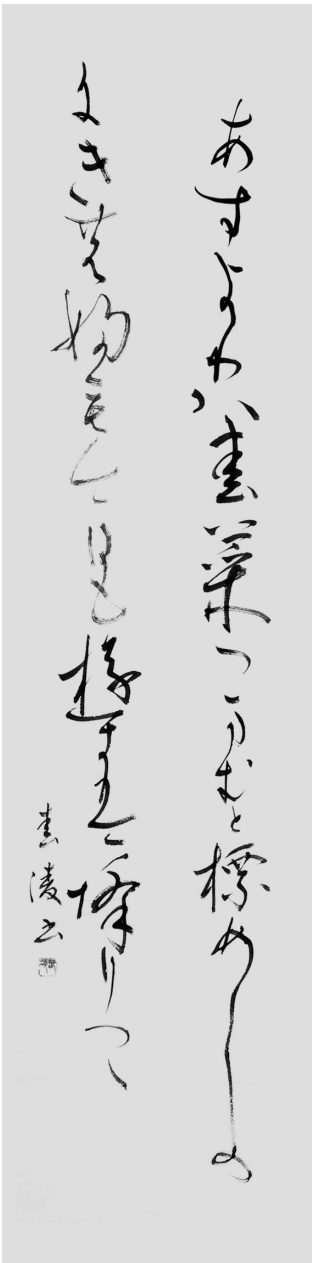
A



平岡華雪先生書

明日よりは春菜つまむと標めし野に昨日も今日も雪はふりつつ（万葉集　山部赤人）
明日よりは春なつまむと志(しめ)し野(に)二昨日も今日も雪八婦(はふ)りつゝ

B



武井春凌先生書

あすよ利(りは)八春菜つ万(ま)むと標めしの尓(に)き農婦(のふも)毛今日も遊支盤(ゆきはふ)降りつゝ

山部赤人（生没年未詳）
奈良初期の万葉歌人。三十六歌仙の一人。行幸供奉の作が多い。優美・清澄な自然を詠んだ代表的自然詩人。紀貫之も「人麻呂は、赤人がかみに立たむことかたく、赤人は、人麻呂がしもに立たむことかたくなむありける」（「古今集序」）と賞賛している。

学び方

歌意―明日からは春菜を摘もうと野に標（しめ）を張っておいたのに、昨日も今日も雪が降っています。

一行目「**あすよ利八**」テンポ良く、「**春菜つ万む**」から墨の潤渇を意識しながら、「**今日も**」は特にゆっくりと墨が出てくるのを待ちながら書き、「**遊支**」はたっぷりと墨を入れながら終筆。

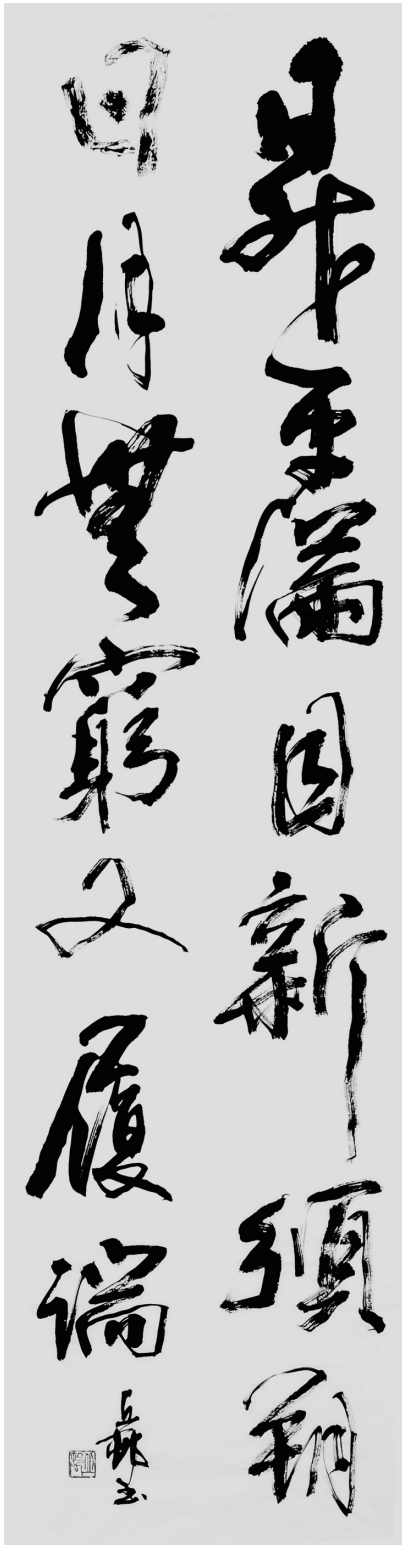
予告（二月二十二日締切）　**鳥のこゑ松の嵐のおともせず山しづかなる雪の夕ぐれ（風雅集）**

◆**注 意**
- 条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条かを○で囲み（1）と記入する。）
- 二枚目からの出品（バーコード券の条かを○で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料525円）

条　幅　部　随　意　参　考

戸張丘邨先生書

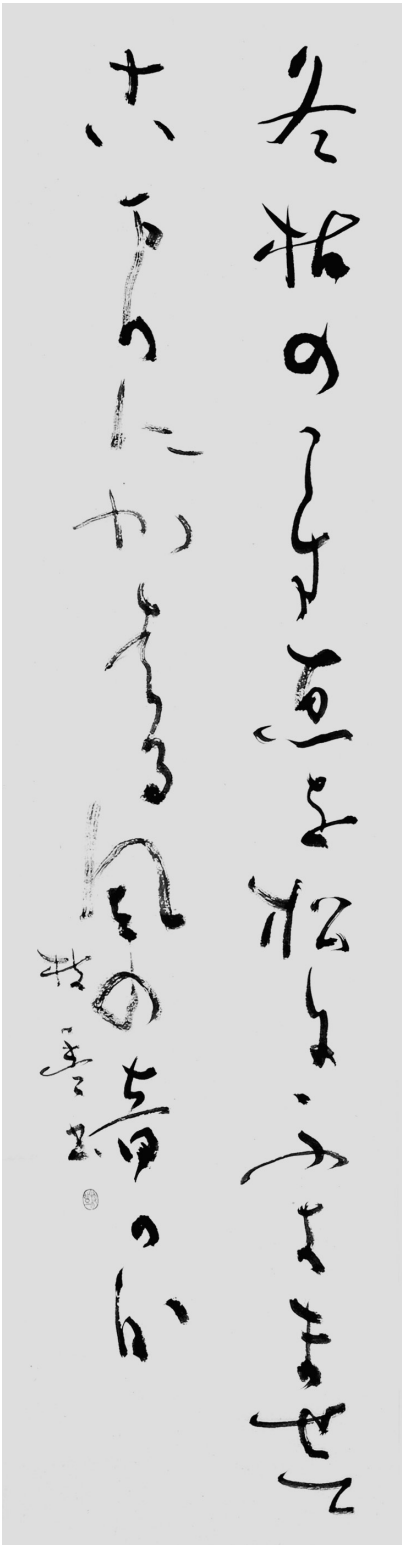
昇平満目新頒朔　日月無窮又履端（文徴明）
昇平満目新に朔を頒ち、日月窮りなく又端を履む。



訳…太平の象はみるかぎりみなぎり新年の朔暦を諸侯に分配し、日月永久なる元日を祝うことになった。

鈴木枝豊先生書

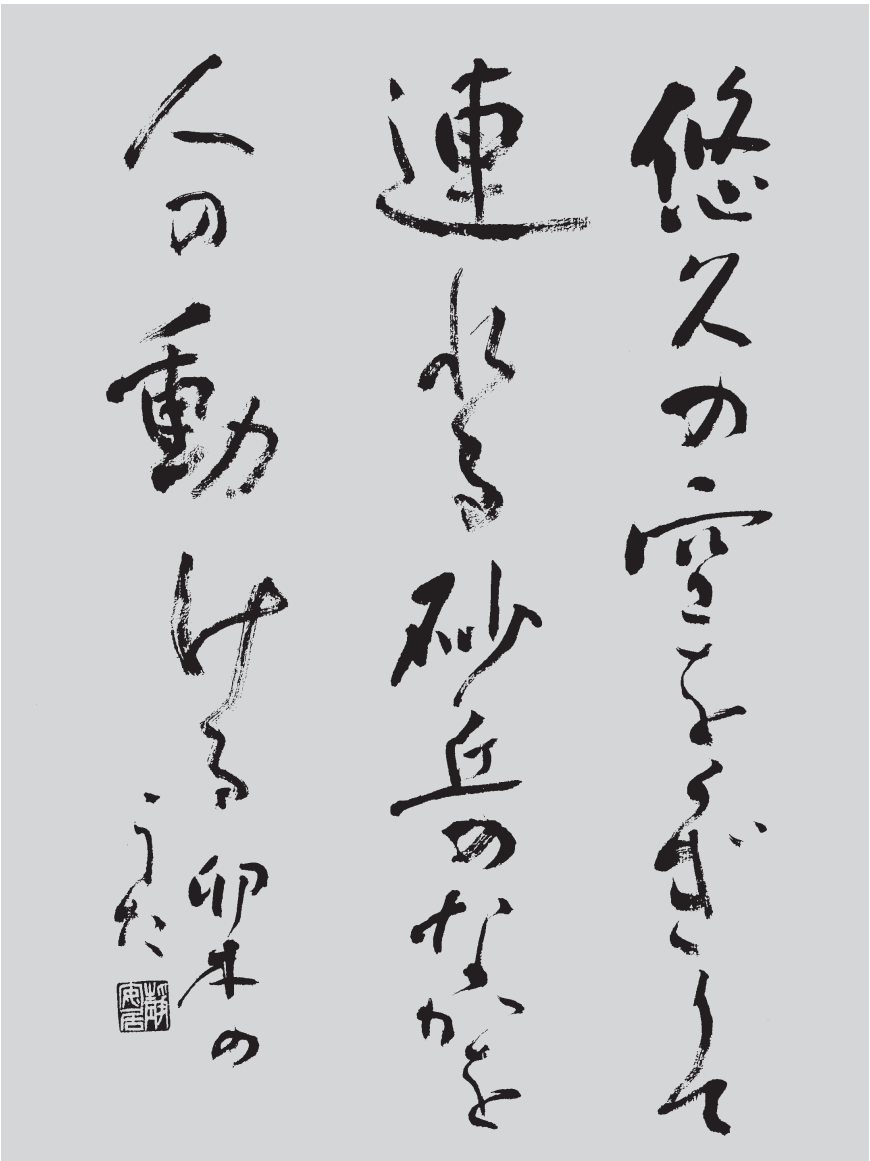
冬枯の梢を松に吹きませてこまかにかはる風の音かな（木下長嘯子）
冬枯のこす惠を松尓ふ支ませて古万可にか者る風の音可那



◆注 意　・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を〇で囲み（1）と記入する。）
・二枚目からの出品（バーコード券の条随を〇で囲み（　）に何枚目か数字を記入する。出品料525円）

鈴木静村書

短歌の三行書き。墨継ぎは「砂」、落款の「卯」。
一行目、「**悠久の**」墨量をやや多めにタップリ感を意識。「**くぎりて**」大小、字幅の変化に留意。
二行目、「**連れる**」渇筆部分、渇筆線に活きを。「**砂丘の**」墨継ぎによるアクセント。「**のなかを**」かなの単調化に工夫。
三行目、「**動ける**」渇筆にも変容を。少し墨継ぎし、印は一顆で締め。

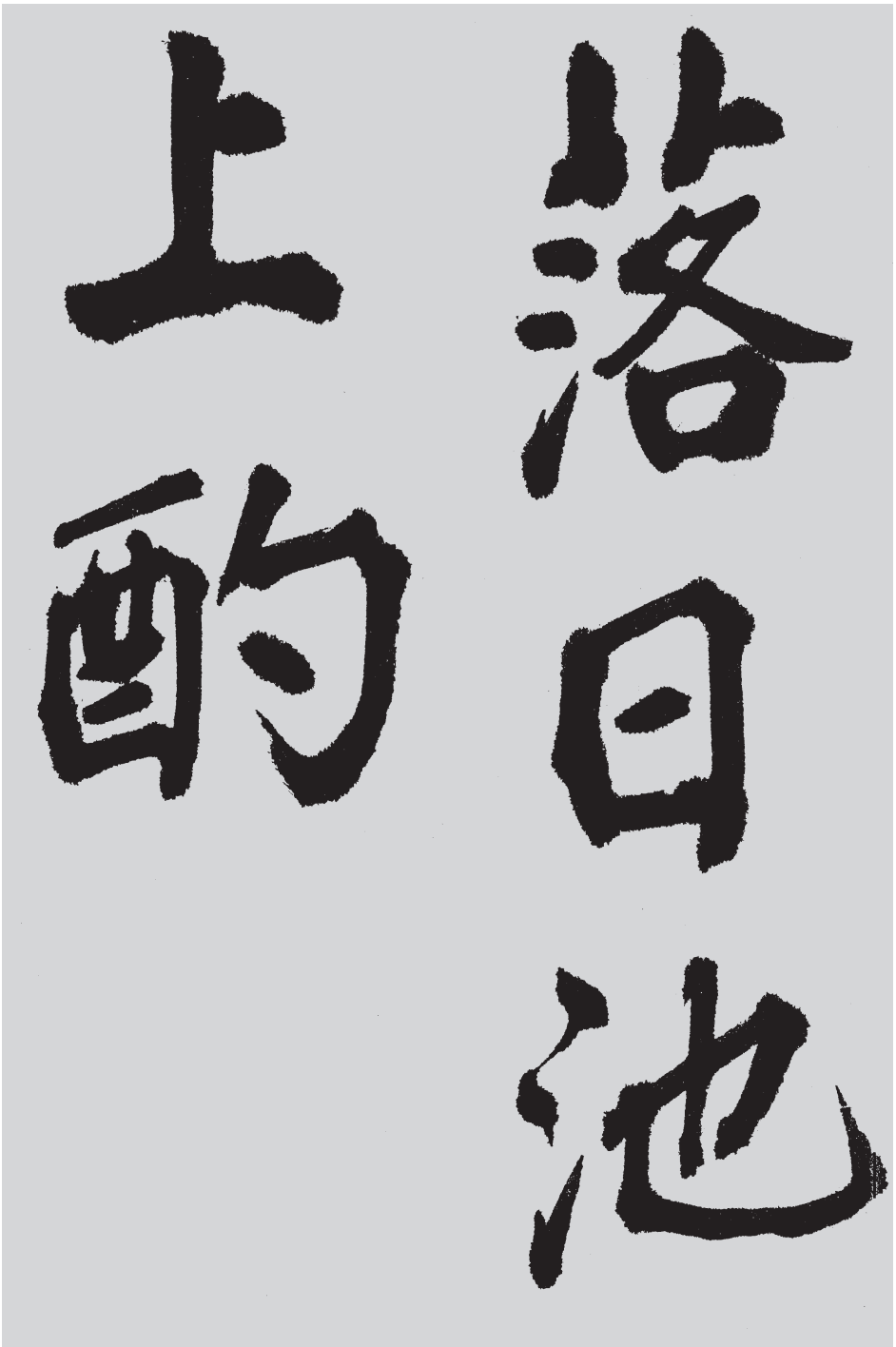


・運筆の途中で筆が止まらないこと。横に手本を置いて見ながら書いているにせよ、筆が止まったら、そこで息が切れ、流れも切れる。見ながら、筆は動かしながらというコツを一日も早く会得されたい。

悠久の
空をくぎりて
連れる
砂丘のなかを
人の動ける

西谷卯木（1904～1979）
安東聖空に師事。歌人。

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位）に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料525円。
①バーコード券右空欄に漢かと記入　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新



平岡華雪先生書

落日池上に酌めば（清風松下に来る）（孟浩然）

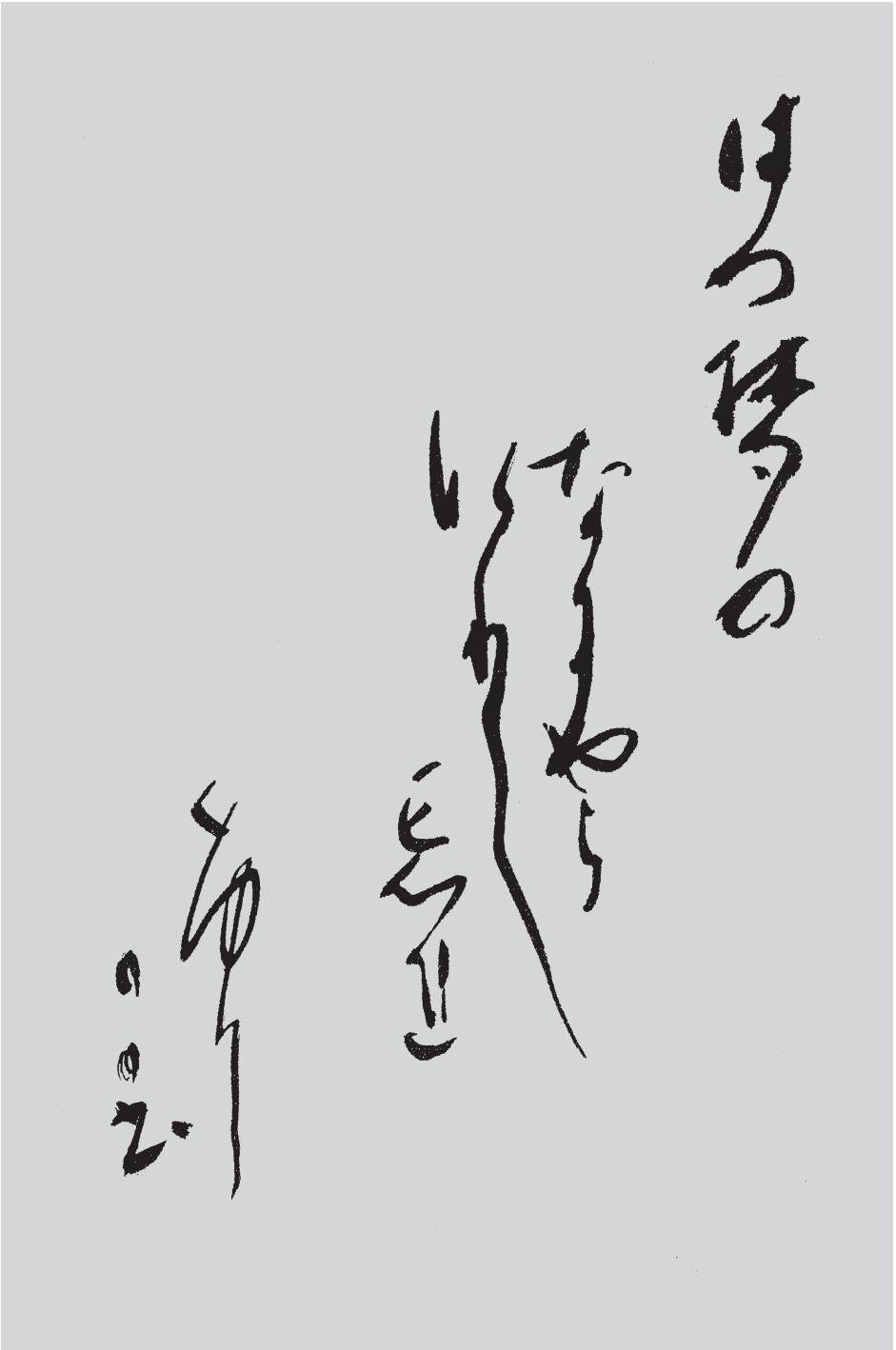
訳…夕日かげに池上で酒を酌めば（清らかな風が松の下から吹いてくる。）

〈画数の少ない文字〉

画数の少ない「日、上」の書き入れ方は案外むずかしい。手本文字のように、やや小さめに、太さはやや太めが適切とされています。よく練習して。

「落」艹冠の書き順

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に次の４項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。
①漢字部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新



平岡華雪先生書

初夢の何やらなりし忘れけり（繞石）

はつ夢のな尓やら那利し忘連希り

〈三群構成への把握〉

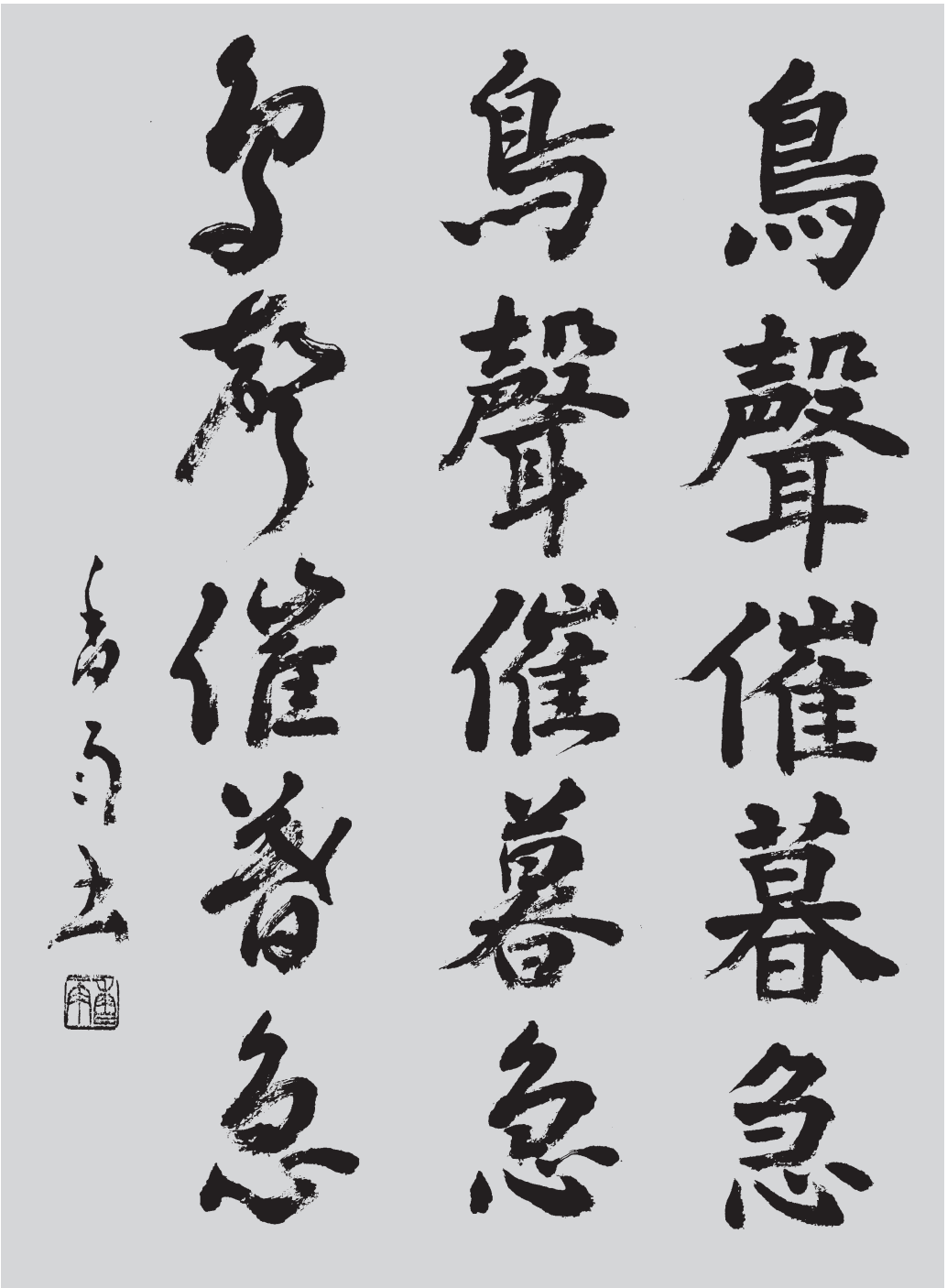
三群散らしの構成。主群は第二群。一般的には「那利し」辺りで渇筆が表出。「忘連」で墨継ぎ。〝渇・潤〟の変化も効果的に。第二群の表出は各自で試みを。第三群は〝希り〟に落款を寄せる。落款のウエート大切。

◆**注意**…はじめて出品される方は私製の紙（３×４㎝位）に次の４項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は420円。
①漢字部　②支部名または都道府県名　③氏名または雅号　④新

楷、行、草、三　体　参　考

酒井香雨先生書

鳥聲催暮急（歐陽修）
鳥聲暮を催して急に。

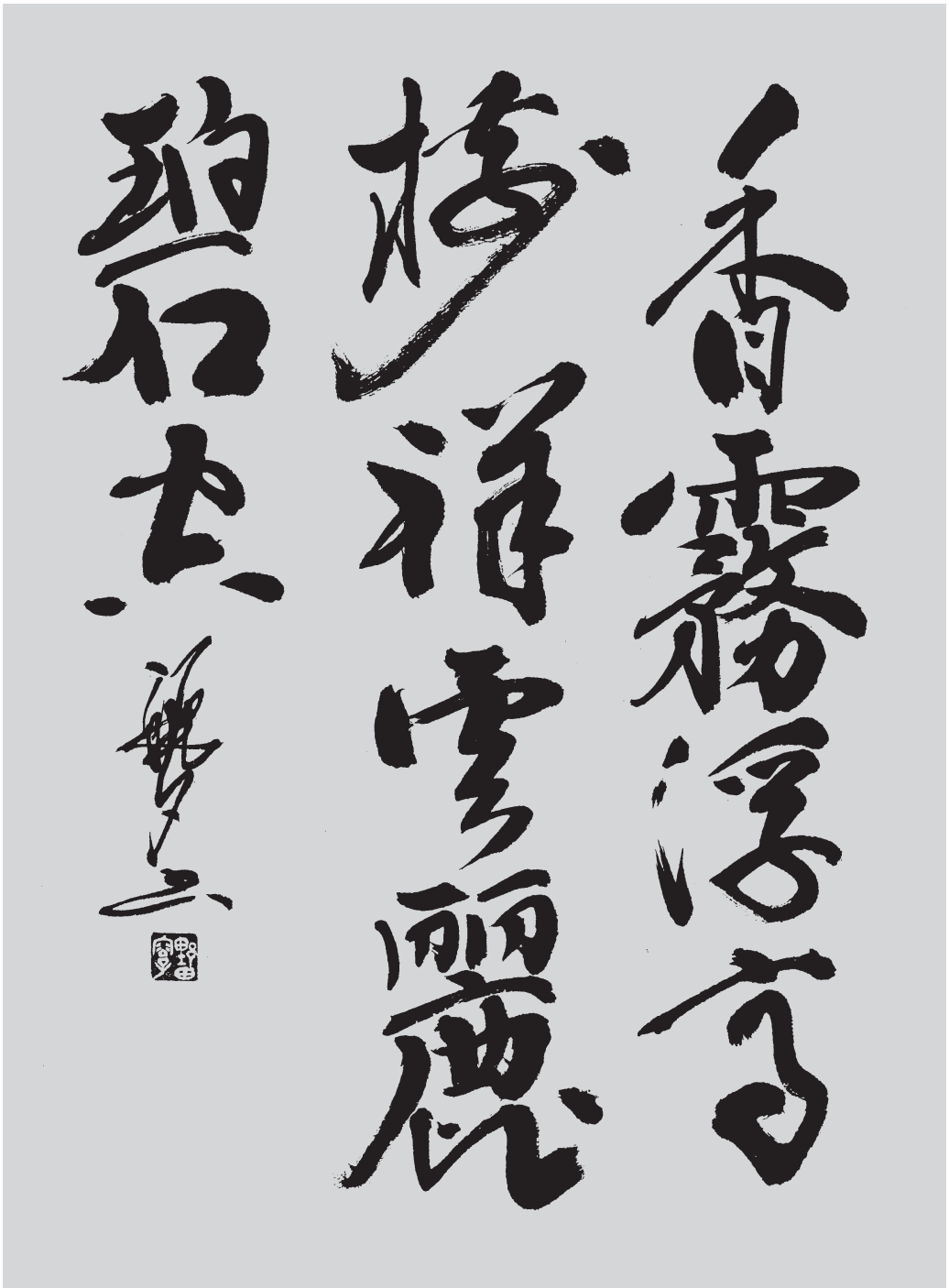


訳…鳥は夕暮れになるとさわがしく鳴いて恰も日の暮れるのをうながすごとくであり、

1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は420円。

随　意　部　参　考

野田麗夕先生書

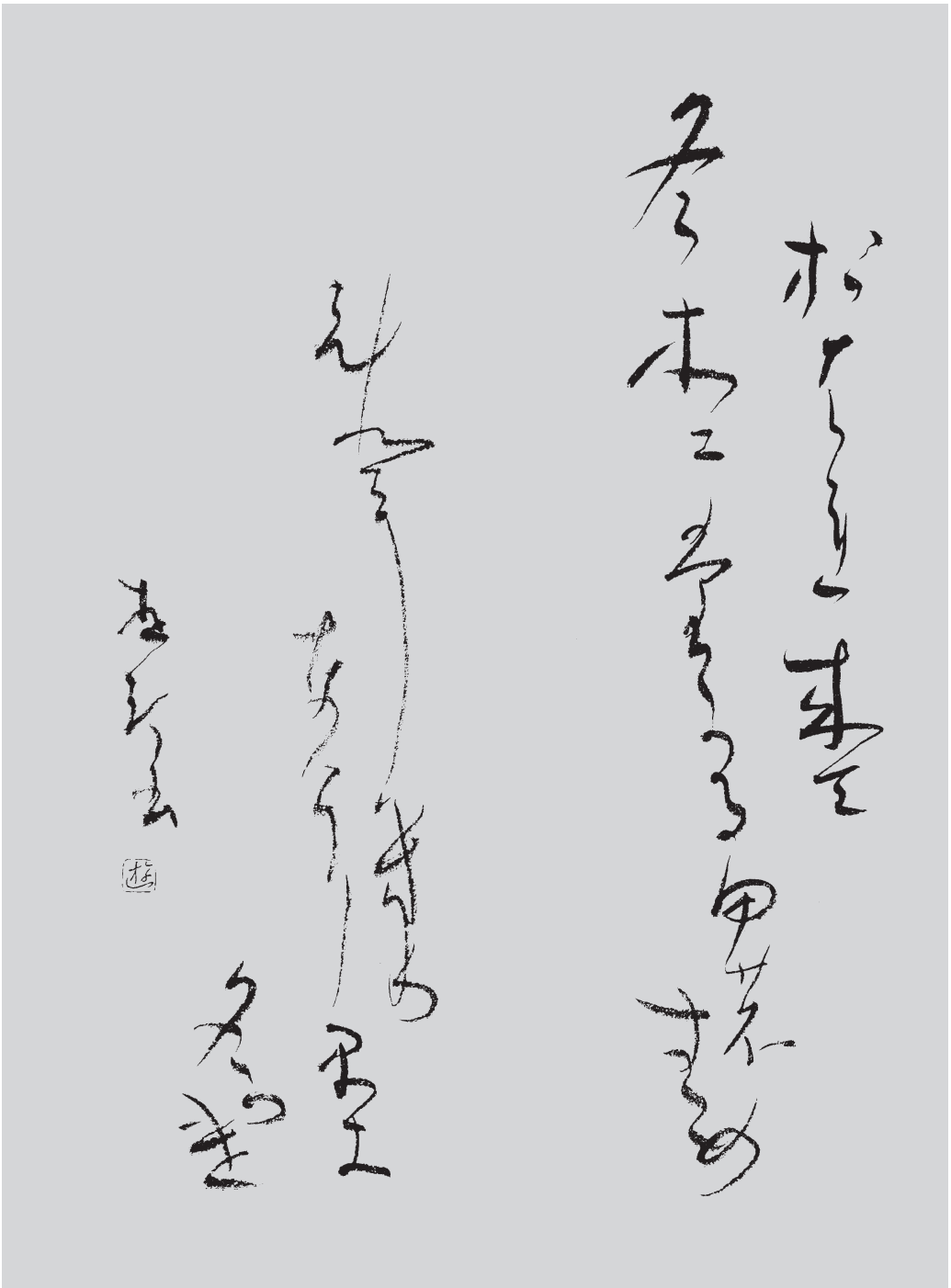


香霧浮高樹　祥雲麗碧空（金幼孜）
香霧高樹に浮び、祥雲碧空に麗く。

訳…花気は霧を成して高き樹のそばに漂い、めでたい雲はあおいそらにたなびいている。

1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は420円

随　意　部　参　考



立川遊汀先生書

追はれ来て冬木にたかる田のすずめ　ひとしきり鳴けり早き夕かげ　（北原白秋）

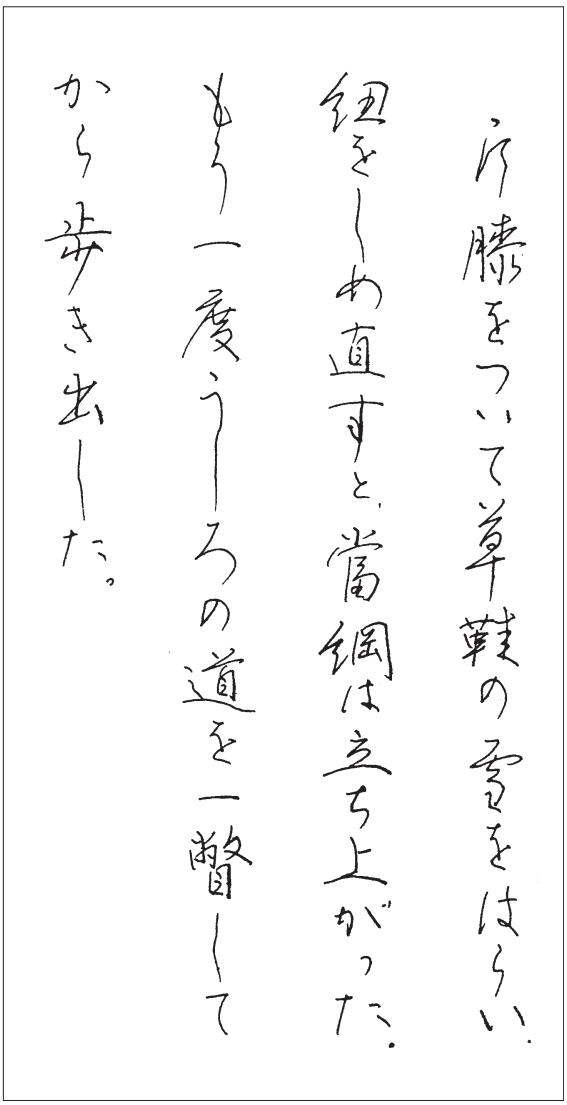
於者連来天冬木二堂可る田農すゝめ飛登し幾利な介り早支夕可遣

1．随意部参考として出品してください。　2．会員外の出品料は420円。

硬筆部課題参考　（一月二十二日締切）

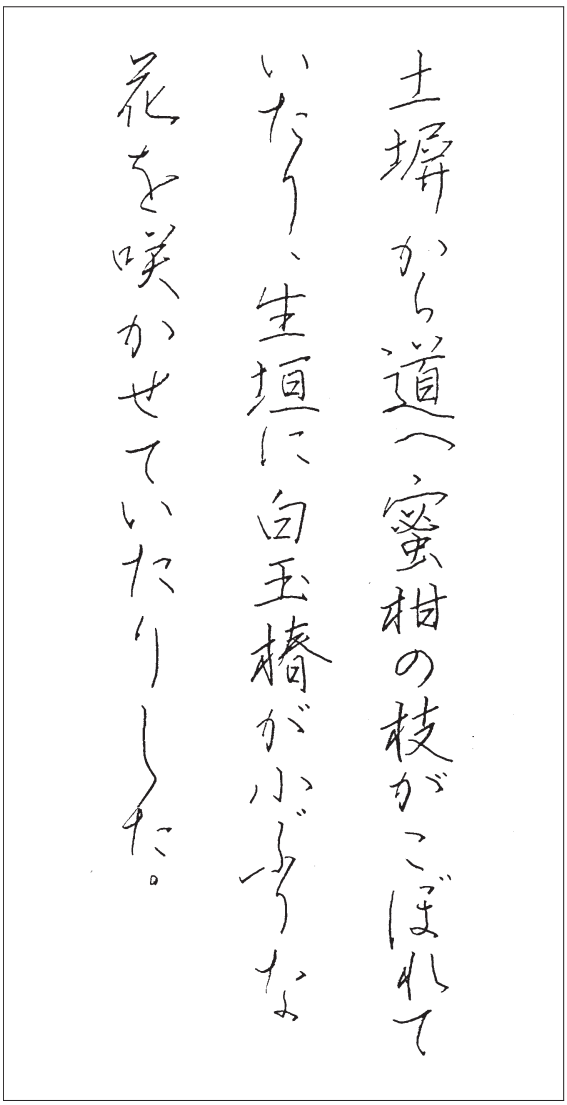
石原春香先生書

課題 1　（初段以上）



松浦江波先生書

課題 2　（初段格以下）



課題1（初段以上）

片膝をついて草鞋の雪をはらい、紐をしめ直すと、当綱（まさつな）は立ち上がった。もう一度うしろの道を一瞥してから歩き出した。

「漆の実のみのる国」藤沢周平

◆注意

(1) 自分の段級に合った課題を選択。

(2) ペンまたはボールペン（黒色）を使用のこと。青インクは不可。

(3) 段級欄は本人が記入（色は黒）

(4) はじめて出品される方は私製の紙（3×4㎝位に）次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新

(5) 会員は無料・会員外は四二〇円

課題2（初段格以下）

土塀から道へ蜜柑（みかん）の枝がこぼれていたり、生垣に白玉椿（つばき）が小ぶりな花を咲かせていたりした。

「醍醐の櫻」水上　勉